

テーマ3：第2回デジタル分科会・現地視察等 実施結果概要

10/11 室内検討 @静岡県静岡市 県男女共同参画センター「あざれあ」

パネルディスカッション（合意形成の重要性）

※森林GISフォーラム記念大会の講演として実施

鹿又座長	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SCMシステムの普及には、合意形成が必要。 ✓ デジタル化は、地域密着型で小規模から開始することも可能。
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 川中・川下との合意形成の際、「デジタル手法でも、従来手法と情報の質は変わらない」と説明して納得してもらった。 ✓ デジタル人材に関して、市町村職員の専門性向上は重要（デジタルを学んだ林業大学卒業生の採用等） ✓ 原木流通のICT化により、データ管理者等、新しい雇用が生まれる可能性がある。
静岡	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 合意形成の際、川上の供給者・川中の需要者の顔が見えるようにし、システム導入による効果の提示に努めた。 ✓ システムの維持管理について、詳細は検討中。システム活用による効果を原資として、自立化を目指している。
鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 川上～川下に、個別に説明して総論の合意を得た。反対者から丁寧に意見を聞くと運用の改善策が見つかる場合もある。 ✓ 後進の人材育成は重要。デジタル化に興味を持ち、他者とのコミュニケーションを苦にしない者が適任。 ✓ システムの維持経費は、従来の事務経費で賄えると試算した。

分科会（3地域意見交換）

北海道	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ICTハブスタの検知データを商取引で活用するには、需要側（工場）との合意形成が重要。
静岡	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県森連での納材先・配車調整にあたり、山土場の状況を即座にデータで把握したい。
鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域材の木材製品の需要傾向をビッグデータで把握・解析し、地域材を使用した住宅での提案に活用したい。

10/12 現地視察 @静岡県伊豆市

山土場

- ✓ 伊豆の地形は急峻で、路網が狭小なので、山土場のスペースが狭い。
- ✓ 4割は中間土場に運材し、6割は直送している。
- ✓ 運材（配車）計画は、予備プランも含め、前週に1週間分を計画。
- ✓ トラック運転手が寸面計測・野帳作成を行っており、直送の場合は、合板工場への納品書も作成する。
- ✓ 山土場の在庫を写真・データで把握し、関係者間で情報共有することにより、運材調整を省力化したい。



中間土場

- ✓ 山土場が狭小のため、R5.1月に1.99haの中間土場を新設。
- ✓ 中間土場の仕分け材は、5割が合板工場、3割が地場製材工場、残りを製紙工場等（チップ）へ納材する。
- ✓ 風や日照の影響を受けやすく、材滞留による干割れ等の劣化が課題
- ✓ 当面の年間素材取扱量の目標は2～3万m³

